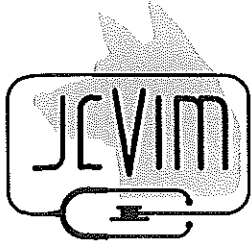


第8回 日本獣医内科学アカデミー 学術大会
日本獣医臨床病理学会2012年大会

2012年大会



抄録集 ①

17日(金)・18日(土)

2012年 2月 17(金) 18(土) 19(日) 日

パシフィコ横浜 〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1丁目1番1号
www.pacifico.co.jp

主催：日本獣医内科学アカデミー 日本獣医臨床病理学会

共催：日本小動物歯科研究会、比較眼科学会

獣医神経病学会、動物臨床医学会、日仏獣医学会、日本家畜臨床学会、日本獣医画像診断学会、日本獣医がん学会、日本獣医循環器学会、日本獣医腎泌尿器学会、日本獣医皮膚科学会、日本伝染獣医学会、動物介在教育・療法学会、日本動物看護学会、日本動物リハビリテーション学会、日本比較臨床医学会、日本ペット栄養学会、日本野生動物医学会、犬と猫の肥満研究会、エキゾチックペット研究会、社団法人神奈川県獣医師会、社団法人川崎市獣医師会、狂犬病臨床研究会、けやき臨床研究会、讃岐のみどり研究会、獣医オゾン療法研究会、獣医呼吸器研究会、獣医動物行動研究会、獣医臨床遺伝研究会、獣医臨床薬理研究会、小動物臨床血液研究会、多摩研式疾病統計研究会、中部小動物臨床研究会、社団法人東京都獣医師会、動物医療におけるコミュニケーションを考える会 (JNCCVM)、動物医療発明研究会、動物用抗菌剤研究会、動物ワクチン研究会、一般社団法人日本獣医眼科カンファランス (JVOC)、日本獣医クリティカルケア&マネージメント研究会、一般社団法人日本小動物獣医師会、NPO 法人日本動物衛生看護師協会、一般社団法人日本動物看護師協会、公益社団法人日本動物病院福祉協会 (JAHA)、一般社団法人日本臨床獣医学フォーラム (JBVP)、猫感染症研究会、NDK・農場どないずんねん研究会 (獣医コミュニケーション研究会 & 全国畜産支援研究会)、社団法人横浜市獣医師会、予防動物医学研究会

2012年1月31日現在 (学会、研究会等の順で50音順)

後援：(社)日本獣医師会、(社)日本獣医学会



こちらから最新情報を
ご確認ください

HP: <http://www.jcvim-jsvcp.org>

関節症発症犬 34 頭に対する緑イ貝抽出物成分投与の臨床効果 — 封筒法によるプラセボ対照二重遮蔽試験 —

○奥村正裕¹⁾ 三井秀記²⁾ 高橋雅夫³⁾

1) 北海道大学大学院獣医外科学教室 2) あすか製薬 3) アオテアロア

【緒言】 緑イ貝 (*P. canaliculus*) は古くからニュージーランドの一部住民に生食され、その地域では関節症発症が有意に少ないことが知られていた。近年、緑イ貝の機能性が着目されるようになり、そのヒト運動器疾患に対する有効性が示された。その主な有効成分は水溶性抽出物と脂溶性抽出物 (オイル) と考えられるが、天然素材の安定性は必ずしも高くない。本研究の目的は、緑イ貝抽出物の有効成分を生体に近似させた割合に配合して安定化させた製剤の犬関節疾患における臨床効果を評価することである。

【対象および方法】 対象動物は、平成 21 年 4 月から 23 年 3 月までに北海道大学附属動物病院に来院し、関節症と診断された犬 40 例とした。試験は、プラセボ対照剤 (20 例) と試験剤 (20 例) のいずれかを給与した A 期間 (4 週間) と試験剤のみを給与した B 期間 (4 週間) の計 8 週間とした。なお、A 期間は封筒法により二重遮蔽試験とした。患肢の運動機能評価は「跛行」、「活動性」、「関節の痛み」および「関節可動域」の 4 項目について実施し、それぞれ 0~5 の 6 段階としてスコア化した。なお、試験期間中の併用薬剤については特に制限せず、使用記録を残した。試験剤の給与量は概ね体重 5 kg 当り 1 錠/日とし、30kg 以上の犬には 6 錠/日とした。なお、1 錠 (280mg) あたり、120mg 以上の緑イ貝抽出成分を含むものとした。

【結果】 40 症例中プラセボ群 4 例と試験剤群 2 例が事由により脱落し、それぞれ 16 例と 18 例の計 34 症例 (炎症性関節症 18 例; 変形性関節症 16 例) を評価の対象とした。試験開始前の両群の運動機能スコアに有意な差はなかったが、試験群のスコアが高い傾向があった。A 期間終了時、その傾向は逆転して試験群でスコアが低くなり、特に「跛行」の評価において試験群がプラセボ群に比較して有意に改善した ($p=0.048$)。A 期間終了までプラセボ群ではすべてのスコアはほとんど変化しなかったのに比較して、B 期間終了時にはすべてのスコアの明確な改善傾向がみられた。試験群では、プラセボ群に比較して「跛行」が明らかに改善した ($p = 0.016$) が、炎症性関節症に限れば、関節の可動域の改善にも供試剤給与の効果が観察された。

【考察および結論】 以上の結果から、関節症を発症した犬に緑イ貝抽出成分を合成した製剤の給与は、その臨床症状を改善させる可能性があることが示唆された。本試験は、国内における犬の運動器疾患に対するいわゆる健康補助食品を用いたはじめてのプラセボ対照二重遮蔽試験である。A 期間の試験群で明らかに全スコアが改善し、プラセボ群でほとんど変化しなかったことは、本試験の供試剤である緑イ貝成分配合剤の給与が犬の関節症の症状を修飾させうる可能性を示唆している。